

学校教育目標

- ◎ 一人ひとりを大切にした教育を行い、地域とともに歩み、自立と社会参加を目指す教育を充実させます。(開校宣言)
- 一人ひとりに応じた学び、コミュニケーションを大切にした教育を行います。(知)
- 一人ひとりの自他を大切にしたい気持ちや態度を育てる教育を行います。(徳)
- 一人ひとりの体と安全を最優先した教育を行います。(体)
- 一人ひとりの社会の一員としての気持ちや態度を育てる教育を行います。(公・開)

学校概要	創立 10 周年	学校長 小林 淳一	副校長 海瀬 茂・宇佐美 剛	2 学期制	指定地域等
	幼児・児童・生徒数: 164 人	幼稚部: 人	小学部: 43 人	中学部: 21 人	高等部本科: 101 人 専攻科: 人

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

A:	健康な体 コミュニケーション 興味・関心	健康に過ごす力 伝える力 他者との関わりを広げていく力 好きなこと、楽しいことを見つける力
B:	コミュニケーション 自己実現 社会参加	相談する力 自己選択、自己決定できる力 自立と社会参加を目指し生きる力

育成を目指す資質・能力を踏まえた 「(A:12、B:3)年間で育てる子ども像」と具体的取組

- A: 自立を目指して、自分の思いや考えを自分なりの方法で伝える力を身に付けた子ども。
自立を目指して、よりよく生きるために他者との関わりを広げていく力を身に付けた子ども。
自立を目指して、心豊かに過ごすために、好きなこと、楽しいことを見つける力を身に付けた子ども。
- B: 自己有用感をもち、コミュニケーション力、特に相談する力を身に付け、自立と社会参加を目指す子ども。
- A: チーム力を一層向上させ、個別の指導計画の客観性と精度を高め、個々の課題解決に的確な指導の工夫を行う。
- B: チーム力を発揮し、キャリアデザインの精度を高め、生徒の相談力を向上させ、個々の目標達成に適切な支援を行う。
- C: チーム力を構築し、A・B両部門の教育を支える。

中期取組目標

- 一人ひとりを徹底的に大切にしたい教育を行い、地域と共に歩み、個々に応じた自立と社会参加を目指す教育を充実させます。
- ・ 教育的ニーズに応じた課題の設定や解決方法を通して、自己表現や自己選択や自己決定する力を育てます。
- ・ 交流及び共同学習の場面を多く経験させることを通して、自他を大切にしたい気持ちや態度を育てます。
- ・ 個々に応じた健康・体力の維持、増進を目指すことを通して、個にあった健康・体力の向上を図ります。
- ・ 校内の職員をはじめ、身近な方々や地域の方々と交流する時間を多く設定することを通して、社会の一員としての気持ちや態度を育てます。

重点取組分野

具体的取組

知	生きてはたらく知	A: ①個別の教育支援計画及び個別の指導計画の内容や作成の手順等の見直しを行い、作業の明確化や効率化を図る。また指導と評価の一体化を推進し、個々の目標達成を目指して、評価に基づいた授業改善を図る。②一人ひとりを大切にしたい教育課程の編成(授業内容の精選・組織と授業時数の配当等)を図る。③この2つを結びつけ、ふり返る力を育て、キャリアデザイン相談会を行う。④将来の自立に役立つ一般教科指導の充実を図る。⑤教育課程を見直すことで、よりよい授業実践を図り、自立と社会参加を目指し生きる力を身に付けられるようにする。
徳	育ちあう力	『豊かな心の育成プラン』に基づき、「交流及び共同学習」の充実を図る。 ○A・B両部門間の校内での「あいさつ交流」や「ふれあい交流」を通して、仲間意識を育み、共に生きる力を育てる。また、「学校間交流」「地域との交流」「副学籍による交流」などを通して、他者を大切に「育ちあう力」を育む取組を推進する。
体	健やかな体	A: 保護者や医師の協力のもと、個々の児童生徒の健康状態を適切に把握し、日々の健康の維持と増進を目指して取組を行う。 B: 自他の体を大切に、自らの健康を見つめ、進んで生活の改善を行うとともに、生涯の健康づくりのための取組を行う。
公開	センター的機能の取組	①旭区を中心とした小学校・中学校等への教育相談や巡回支援、研修の提供等特別支援教育の専門性を活かした取組の促進と充実を図る。②若葉台地区周辺の教育機関や福祉機関、地域の方々と連携・協働し、障害理解や啓発、研修の提供などを通して当事者の方々の社会参加に貢献する。
	地域連携・学校運営協議会	①これまで培われてきた、B部門と地域とのつながりを活かし、A部門も共に学び地域と交流する機会を模索する。②様々な媒体や機会を活用し、学校教育活動と地域住民活動の相互理解を進める。③学校運営協議会での意見交流をより効果的に生かせるよう、地域連携に関してわかりやすく要点を絞った学校評価を行う。
	医療的ケア	①看護師、養護教諭、クラス担任、及び医療をはじめとした関係機関の協働により、児童生徒の体調管理及び安全な医療的ケアの実施に努める。②収集したヒヤリ・ハットの内容を年間2回考察し、重大な事故を事前に防止するとともに類似の事例の再発防止に努める。③児童生徒の思いに寄り添うと共に、体調の変化に合わせて、保護者と随時相談し、丁寧かつ迅速な対応、環境整備を目指す。
	キャリア教育	①自己選択・自己決定の過程を日々の活動の場面で意識できるようにし、現場実習等の経験を通して自身の卒業後の姿をイメージできるようにし、進路選択につなげる。②経験を通して自分自身の変容に気づける機会として、ふり返りを捉えて大切に行う。③学校生活の様子から生徒一人ひとりの特性を見極め、進路決定に向けた取組を保護者とも丁寧に連携して行う。
	いじめへの対応	①児童生徒が「参加・活躍できる授業」「わかる授業」を工夫し、実践する。 ②保護者懇談会・家庭訪問・個人面談・連絡帳等を通じて、保護者と連携する。 ③スクールカウンセラーの活用、いじめアンケート、定期的な面談等を行うことで、生徒の心理的、精神的な状況の把握を行う。(B部門のみ)
	人材育成・組織運営(働き方改革)	①校内研修を4回実施し、専門性・危機管理能力など、学校に求められる教職員の力量の向上を目指す。 ②校内組織の効果的運営と学校運営上の課題解決の取組の推進を目指し、運営委員会及び課題に関連する部署の代表者による特別委員会を開き、課題解決を図る。 ③メンターチームの取組を推進し、教職員のキャリアステージに応じた校内人材育成を充実させる。 ④会議の効率化を図るため、内容の精選と設定の工夫をする。